

II. 分担研究報告書 研究 1-1

厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

特定行為研修修了者に関する国内文献レビューに関する研究

研究代表者 酒井 郁子 （千葉大学 教授）
研究分担者 山本 則子 （東京大学 教授）
研究分担者 山本 武志 （札幌医科大学 准教授）
研究協力者 小松 亮 （千葉大学 博士後期課程）

研究要旨

特定行為研修修了者（以下、修了者）の活用及び配置モデルの開発に先立ち、モデルの構成要素を検討するため、国内文献のレビューを実施した。構成要素を網羅的に検討するため、検索用語には修了者だけでなく診療看護師や認定看護師、専門看護師などを含め、「雇用」「配置」「活用」「効果」の用語を掛け合わせた。データベースは医学中央雑誌Web版を使用し、特定行為研修制度の施行された2015年から2020年の期間で文献の種類を限定せず文献検索を行った。

検索結果509件の文献が該当し、内容を精査したうえで45件をレビュー対象とした。対象文献で修了者の「雇用」「配置」「活用」「効果」が記載されている箇所を抜き出し類似する意味内容ごとに分類した。

分類の結果、修了者の活用に関する構成要素には、【特定行為の実施】【医師との協働】【患者家族への説明・指導・教育】【看護スタッフへの教育・指導】【看護師への業務支援】【職員等への教育活動】が含まれていた。また、管理者と共に実施する【勤務体制構築】や【特定行為の周知】活動があった。

本研究で検討した構成要素を参考に、今後、全国調査の枠組みの検討や修了者の活用及び配置モデルの開発につなげる。

A. 研究目的

特定行為に係る看護師の研修（以下、特定行為研修）が2015年に開始され5年が経過したが、研究の分野として十分な知見が蓄積していない現状がある。例えば、2020年4月の時点で医学中央雑誌Web版による「特定行為研修 or 特定行為に係る看護師の研修制度」をキーワードとして、検索期間を限定せず検索した結果は389件が該当した。その内、原著論文数が20編で

あることから十分に研究が行われているとは言えない。

特定行為研修修了者は今後、増加することが見込まれている。組織で修了者を効果的に配置、活用するためには、現時点で修了者の活用に関する実践例などを参考にしながら、修了者の配置及び活用モデルを検討する必要がある。

そこで本研究は、修了者の配置及び活用に関する全国調査を実施するにあたり、調査の枠組

みを検討するために修了者の配置・活用に関する文献を網羅し、構成要素を検討することを目的とする。

B. 研究方法

1. 文献検索の方法

特定行為研修制度が施行された2015年から2020年の期間を対象に医学中央雑誌 Web 版 ver.5 (以下、医中誌) を用いて文献検索を実施した。

鈴木⁽¹⁾は修了者の組織内への「雇用」と「配置」に関して「活用」「効果」を含む4つの管理的視点を用いて報告していた。本研究では、修了者の活用モデルの開発を検討するために、これら4つの視点「雇用」「配置」「活用」「効果」を用いることとした。

さらに、修了者の配置活用に網羅的に検討するため、対象となる文献には「Advanced Practice Nurse or 高度実践看護師」「Clinical Nurse Specialist or 専門看護師」「Nurse Practitioner or ナースプラクティショナー」「診療看護師」「認定看護師」「特定行為研修修了者 or 特定行為研修」を含め、鈴木⁽¹⁾の4つの管理的視点を掛け合わせて文献の検索を行った。

2. 文献の選定基準

包含基準は次の①～⑥とした。

- ① 修了者の活用方法が記載されている
- ② 修了者の活用に関する効果が記載されている
- ③ 修了者の活用に関する課題が記載されている
- ④ 原著、総説、解説、opinion を含む

⑤ 報告書を含む

⑥ 本文あり

除外基準は次の①～⑨とした。

① 重複した論文

② 修了者の活用に関する記載がないもの

③ 認定看護師の記載のみ

④ 専門看護師の記載のみ

⑤ 高度実践看護師の記載のみ

⑥ 症例報告

⑦ 会議録

⑧ 研修および教育の実施・評価が記載されているもの

⑨ 本文なし

検索により該当した文献に対して表題と要旨、本文の内容から選定基準を満たしているか確認し、対象文献を選定した(図1)。

3. 文献の分類方法

特定行為研修修了者の「雇用」「配置」「活用」「効果」について、組織の意図および効果や課題の認識に関する各文献の記載に着目し、それぞれの共通点や相違点を見出して分類した。

C. 研究結果

1. 検索結果

2020年7月時点で文献検索によって509件が該当した。これらの文献を選定基準によってスクリーニングした結果、464本が除外され、最終的に基準を満たした45本を対象とした(図1)。

2. 対象文献の特徴

文献の内容は特定行為研修修了者に関する文献27件、診療看護師16件、ナースプラクティ

ショナーは2件であった。記事区分でみると原著論文7件、特集33件、解説5件であった。

対象となった文献について、「雇用」「配置」「活用」「効果」の枠組みを用いて分類した結果を以下に記述する。【 】は分類を示し、< >は各分類の構成要素を示す。

3. 雇用

雇用に関する記載は、【雇用の目的】【雇用(研修派遣)の背景および理由】【雇用条件】の3つに分類された。さらに【雇用の目的】は< 医師との調整役割を果たす > < 医師の負担軽減 > < チーム医療の要となる > < 看護師への教育・指導 > < 医療の質の向上と効率化 > < 全人的ケアと医師の思考過程の融合 > の6つから構成されていた(表1-1)。具体的には「チーム医療の要・地域医療の担い手としての役割を果たすこと (ID4)」「看護師の役割拡大により医師の負担の軽減を見込む (ID1)」「ともに働く看護職に対する教育・指導 (ID3)」などの記載があった。

【雇用(研修派遣)の背景・理由】は、< 医師不足 > < 看護師不足 > < 組織目標として予算化 > < 厚労省助成金を利用 > < 厚労省試行事業派遣 > < 研修費用を組織負担 > < 研修中の休職扱い > < 研修中の応援人員確保 > の8つから構成されていた(表1-2)。具体的には「医師不足のため (ID6)」「特定行為研修修了者の必要部署への配置が組織目標となり予算化実現 (ID1)」「研修中勤務先のステーションは派遣の応援あり (ID11)」などの記載があった。

【雇用条件】に関しては、< 雇用準備 > < 夜勤のある病棟勤務 > < 平日日勤勤務 > < 手当、

昇格、昇給 > < 研修受講への援助 > < バッジ付与 > の6つから構成された(表1-3)。具体的には「受け入れ準備として、コミュニケーション能力の高い人材の見極め、役割説明、安全対策、環境整備、管理者のサポート (ID12)」「医局所属の平日勤務 (ID12)」「修了者の処遇を変更したのは37.1%で手当の支給、昇格・昇級 (ID13)」などの記載があった。

4. 配置

配置に関する内容は【病院中央部門】【病院看護部】【病院診療科】【介護施設】【訪問看護ステーション】に分類された(表2)。【病院中央部門】とは「医療安全部 (ID15)」や「褥瘡対策部 (ID2, ID14)」を示していた。【病院看護部】は「看護部 (ID9, ID19)」であり、【病院診療部】は「救命救急センター (ID21)」や「診療科脳外科 (ID4)」で主に診療看護師の配置が多く見受けられた。【介護施設】は「介護老人保健施設 (ID27)」、【訪問看護】は「訪問看護ステーション (ID8, ID11, ID29, ID30, ID31, ID32, ID33, ID34, ID35)」との記載があった。

5. 活用

活用に関する内容は【特定行為研修修了者及び診療看護師の活用】と【特定行為研修修了者及び診療看護師に期待される活用】の2つに分類された。さらに【特定行為研修修了者及び診療看護師の活用】は、< 特定行為の周知 > < 勤務体制構築 > < 職員等への教育活動 > < 看護師への業務支援 > < 医師との協働 > < 患者家族への説明・指導・教育 > < 身体状況に応じた包括的対応 > < 特定行為実施 > < 横断的活動 > < 看護外来 > から構成されていた(表3-1)。

具体的には「担当医不在のため病棟師長による手術当日夜勤割り当て (ID16)」「外科医と協働した継続的な診療支援 (ID1)」などが挙げられる。

【特定行為研修修了者および診療看護師に期待される活用】は<体制構築><身体状況に応じた包括的対応><全人的ケアと医師の思考の融合><リーダー役割モデル><患者、医師、看護師の橋渡し><患者家族への説明・指導・教育><患者の意思の尊重><職員等への教育活動><医師の代替><院内リソース>から構成されていた (表3-2)。具体的には、「患者の全身管理を行い感染予防に資する (ID3)」「全人的ケアと医師の思考の融合 (ID4)」「患者の決定を尊重した特定行為の実施 (ID3 2)」が挙げられる。

期待される活用方法の具体例として「職場の看護の質の向上 (ID13)」「看護師の通訳の役割 (ID3)」との記述があった。

6. 効果

修了者活用に対して認識されている、あるいは期待される効果に関する内容は、【患者家族】【同僚看護師】【医師】【診療ケア】【経営】【地域医療】の5つに分類された (表4)。さらに【患者家族】への修了者活用への認識・期待される効果として<安心・信頼><苦痛の軽減><急変・重症化の減少>などが挙げられた。【同僚看護師】に対しては<医師との協働の強化><踏み込んだケア実践が可能>という修了者の関わりによる効果を期待していた。具体的な記載として「踏み込んだケア実践が可能 (ID1)」があった。また、【医師】への期待される効果は「医師の負担軽減 (ID10, ID39, ID26,

ID44)」、【診療ケア】については「治療の継続性の確保 (ID1)」との具体的記載があった。

D. 考察

特定行為研修修了者の活用モデルを検討するため、修了者の活用に関する国内文献について、「雇用」「配置」「活用」「効果」という4つの枠組みを用いて配置・活用に関する内容を検討した。

1. 雇用

組織が特定行為研修修了者を雇用することについて、雇用するための理由、雇用するための目的、雇用する際の雇用条件という3つに分類し、その内容をまとめた。

雇用の目的の内容を見ると、修了者に対して、医師との調整役割、チーム医療の要、医療の質の向上と効率化、など修了者への期待の大きさがうかがえる一方、具体的な目的の表現となっていない。また、看護師への教育指導という目的に見られるように、本来特定行為研修の修了者に期待されていない役割期待も散見された。

2. 配置

特定行為研修修了者及び診療看護師の配置部署には病院の看護部や診療科、介護施設、訪問看護ステーションなど多岐にわたっていた。このことは修了者が多様な施設で勤務していること、そして組織内でも様々な部署に配置されて活動している可能性を示しているといえる。

3. 活用

特定行為研修修了者及び診療看護師の活用に関しては、実際の活用例と期待される活用に分類し、内容をまとめた。

実際の活用に関しては、特定行為の実施によって、患者の身体状況への継続的な対応を可能とし、診療の支援に寄与していることが推測される。一方で、修了者の活用には多様な要素が含まれていた。このことは、前述の雇用の目的と同様に、修了者への期待の高さがうかがえる。

4. 効果

特定行為研修修了者及び診療看護師を組織で活用することによって、患者家族に提供される診療ケアの質向上が期待されていた。また、管理者は修了者を活用することで、同僚看護師への教育効果などの効果を期待していることが推測された。

また、管理者が認識・期待する効果には多様な要素が含まれていることから修了者への過度な期待は、修了者の活用に関する適切な評価を歪める可能性がある。

5. 活用モデルの構成要素の検討（図2）

修了者は、対象者の状態を判断して手順書に基づいてあらゆる場において安全でタイムリーな【特定行為の実施】が求められている。

修了者は、臨床推論や臨床薬理、フィジカルアセスメントなどの医学的知識の学修を通して医師との共通言語を獲得し、【医師との協働】できる医療者としての活用が期待されている。また、医学的知識の獲得により医師の治療方針をより平易な言葉を用いてく患者家族への病状説明と指導が可能となり【患者家族への説明指導教育】につながる可能性がある。加えて、

【看護スタッフへの教育・指導】者となることが雇用目的の一つとなっている。

修了者は【看護師への業務支援】だけでなく、看護スタッフや多職種を対象に【職員等への教育活動】も実施していることが明らかとなった。

このような修了者による多様な活動のために、活動環境を整える必要がある。環境整備にはく術後患者の状況に合わせた夜勤体制の構築などの【勤務体制構築】のほか、修了者が実施する【特定行為の周知】も含まれる。

以上のことを整理して修了者の活用モデルの構成要素とするほか、全国調査の枠組みとしての活用を検討する。

E. 結論

特定行為研修修了者の活用及び配置モデルの要素検討を目的として修了者の活用に関する45件の国内文献を対象に、雇用・配置・活用・効果についての記載を抜き出し分類した。

修了者は安全でタイムリーな特定行為の実施を行っており、研修で得た医学的知識をもとに医師との協働を行っていた。また、同じく医学的知識をもとに患者家族への説明・指導・教育を行うとともに、看護スタッフへの教育・指導ならびに看護師への業務支援も実施していた。さらに、職員等への教育活動も行うなど幅広い活動が記載されていた。活動環境の整備や周知については修了者自身による活動だけでなく管理者の支援が必要である。

本研究で検討した構成要素を参考に、今後、全国調査の枠組みの検討や修了者の活用及び配置モデルの開発につなげる。

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

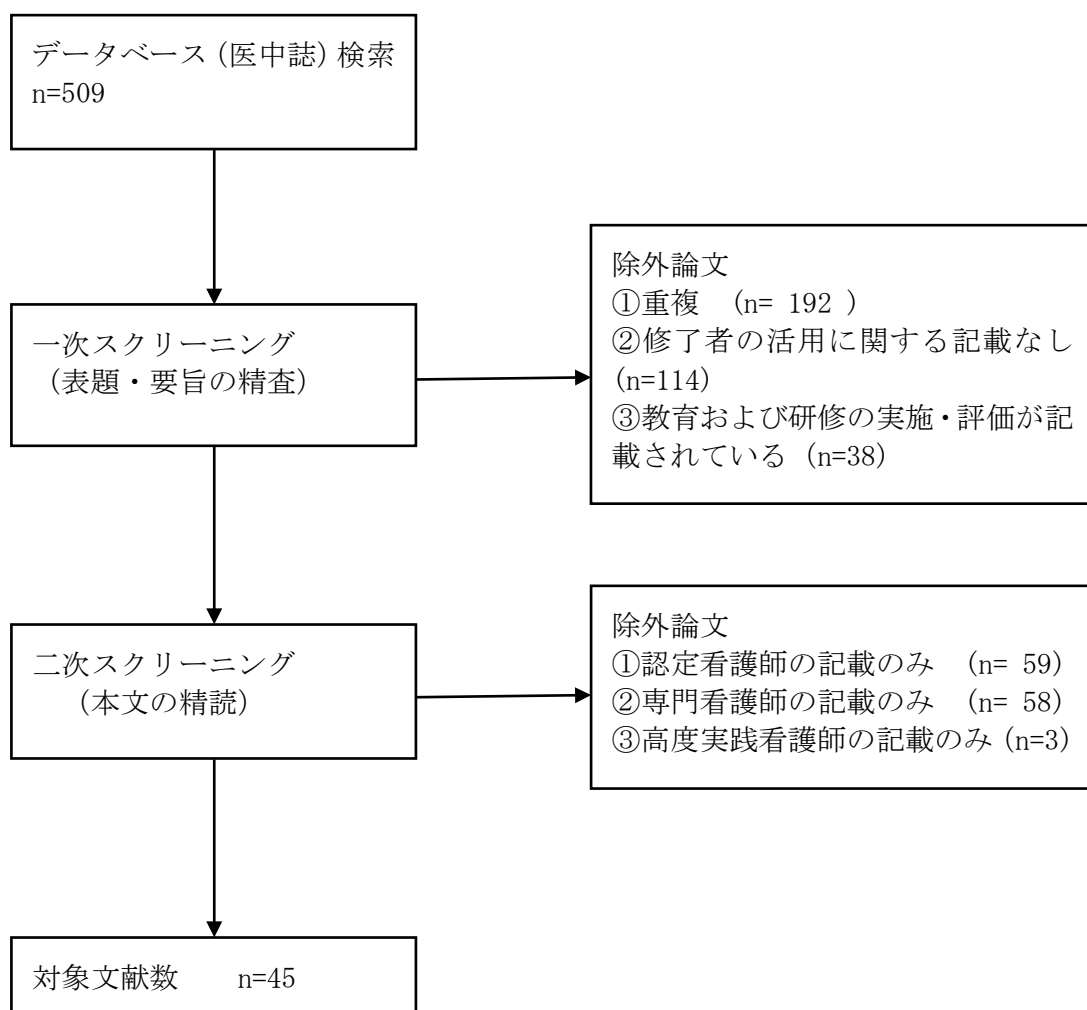


図1 文献の選定プロセス

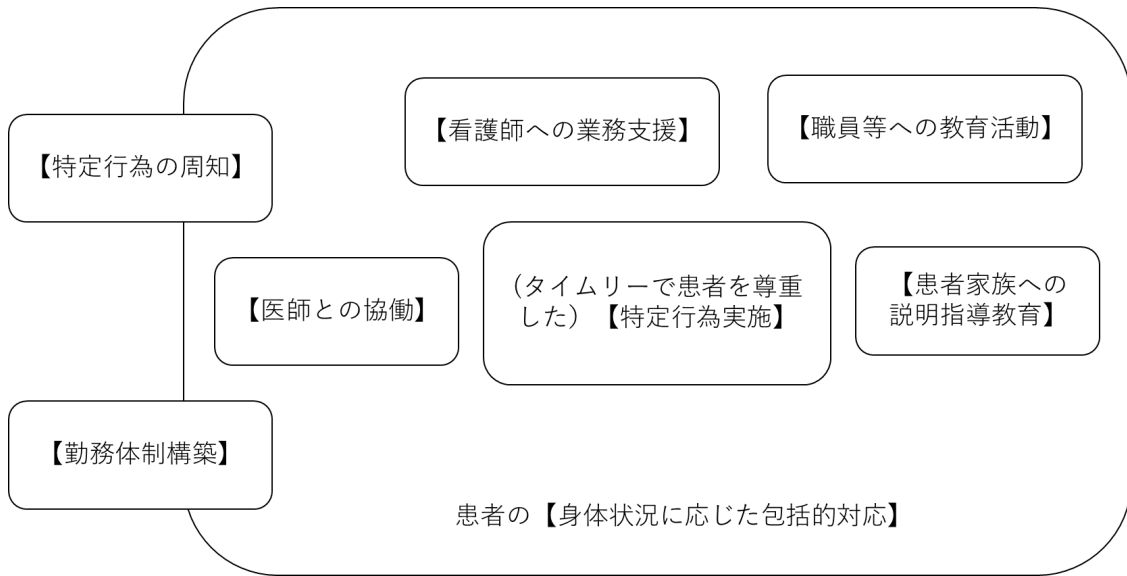


図2 文献レビューから検討した活用モデルの構成要素

表 1-1 雇用の目的

分類	雇用の目的	文献 ID
医師との調整役割を果たす	医師との連携など業務調整	2
	医師との調整役としての役割を期待	3
医師の負担軽減	看護師の役割拡大により医師の負担の軽減を見込む。	1
チーム医療の要となる	「チーム医療の要」「地域医療の担い手」としての役割を果たすこと。	4
看護師への教育・指導	ともに働く看護職に対する教育・指導	3
医療の質の向上と効率化	医療の質向上と効率化のため	5
全人的ケアと医師の思考過程の融合	看護師としての知識・経験を基盤とした患者の個別性に合わせた全人的ケアと医師の思考の融合をイメージした活動をする。	4

表 1-2 雇用(研修派遣)の背景・理由

分類	背景・理由	文献 ID
医師不足	医師不足のため	6
	医師・看護師不足	7
看護師不足	医師・看護師不足	7
組織目標として予算化	特定行為修了者の必要部署への配置が組織目標となり予算化実現	1
厚生省助成金を利用	厚生労働省の「キャリア形成促進助成金」を利用	8
厚生省試行事業派遣	特定看護師(仮称)養成調査試行事業への派遣	9, 10
研修費用を組織負担	研修にかかる費用などはすべてステーションが負担	8
研修中の休職扱い	職務専念義務の免除扱い 3 か月半就職して研修・実習を受講	11
研修中の応援人員確保	研修中勤務先のステーションは派遣の応援あり	11

表 1-3 雇用条件

分類	雇用条件	文献 ID
雇用準備	受け入れ準備として、コミュニケーション能力の高い人材の見極め、役割説明、安全対策、環境整備、管理者のサポート	12
夜勤のある病棟勤務	特定認定看護師病棟での夜勤があるため収入が安定	1
平日日勤勤務	医局所属の平日勤務	12
手当、昇格、昇給	修了者の処遇を変更したのは 37.1%で手当の支給、昇格・昇給	13
	国立病院機構の規定により手当あり	4
研修受講への援助	修了後の手当	14
	研修日は勤務扱い。受講料の援助	14
バッジ付与	修了生にバッジが付与	14

表2 特定行為研修修了者及び診療看護師の配置部署

分類	配置部署	文献 ID
病院中央部門	医療安全部	15
	外来を含む各部署	16
	褥瘡対策部	2, 14
病院看護部	看護部消化器外科病棟	17
	看護ケア支援室看護師長	18
	看護部	9, 19
	看護部 ICU 看護主任	20
	特定行為関連病棟で3交代勤務、常時日勤帯1名。看護部所属。	1
	看護部に籍、活動は診療科	10
病院診療科	救命救急センター	21
	病院	22
	診療科脳外科	4
	総合診療科	20
	周術期領域1名、救急外来(ER)1名、救命救急領域1名、研修中1名	23
	診療科麻酔管理	5
	診療科内科外来	24
	緩和ケア病棟1名、循環器内科1名、訪問看護ステーション	25
	診療科 ICU	6
	診療科外科、麻酔管理	26
介護施設	介護老人保健施設	27
	介護施設	22
	介護老人保健施設	28
訪問看護	訪問看護ステーション	29, 30, 31, 11, 32, 33, 34, 35, 8,

表 3-1 特定行為研修修了者及び診療看護師の活用

分類	下位分類	内容	文献 ID
特定行為の 周知	患者家族への特定行為の周知	患者への周知のために HP やニュースレターで公表	19
	特定行為研修修了者の可視化	職員証に感染管理認定看護師に並列して特定看護師の名称を追記	19
	病院内での特定行為の周知	病院内の主要部署での特定行為に関する説明会開催	19
勤務体制構 築	医師との緊急対応体制の構築	医師と特定行為研修修了者による緊急対応体制の構築	8
	院内緊急コール体制構築	院内の緊急コール体制の構築	22
	外来での問診記録統一	外来での問診記録の統一	16
	術後患者の状況に合わせた夜勤体制の構築	担当医不在のため病棟師長による手術当日夜勤割り当て	16
職員等への 教育活動	看護師への指導	看護師への指導	35, 36
	研修会開催	研修会の開催	34
	多職種への指導	ポジショニングを多職種及び家族へ指導	34
	他組織スタッフへの指導	他事業所からのコンサルテーション	11
	部署内スタッフへの教育	部署内スタッフへの教育	15
	他組織スタッフへの指導	他組織の訪問看護師への指導	35
	糖尿病に関連したスタッフ教育	糖尿病に関連したスタッフ教育	24
看護師への 業務支援	看護師および多職種からの相談を受ける	看護師および多職種からの相談を受ける	4
	術後に病棟看護師に予測される状況の説明	術後に病棟看護師に予測される状況の説明	15
	術前の情報収集をもって手術室看護師の情報不足を補強	術前の情報収集をもって手術室看護師の情報不足を補強	15
	他の訪問看護ステーションの患者に同行訪問	他の訪問看護ステーションの患者に同行訪問	33
医師との協 働	医師と協働し周術期の継続的診療支援	外科医と協働した継続的な診療支援	1
	入院患者の回診を医師と行い治療上の問題点の整理共有	入院患者の回診を医師と行い治療上の問題点の整理共有	4
	医師と同行訪問診療	医師と同行した訪問診療	18
	救急外来での初期対応と医師への提案	救急外来で身体診察し医師に予測される病態の提案	16
	手順書整備と担当医への説明	手順書の作成整備及び担当医への周知	34
患者家族への 説明指導 教育	家族への指導	家族への指導	11
	患者家族への病状説明と指導	患者家族に対して治療に関する意思決定支援	18
	患者家族への病状説明と指導	患者家族への病状説明と指導	22
	患者家族への病状説明と指導	家族への状態説明	37
	患者家族への説明	患者家族への説明	25
糖尿病患者の患者教育	糖尿病患者の患者教育	24	

表 3-1(続き) 特定行為研修修了者及び診療看護師の活用

分類	下位分類	内容	文献 ID	
身体状況に応じた包括的対応	身体状況に応じた包括的対応	皮膚トラブルへの対処	34	
	早期からの救命救急処置	医師と連携した早期介入と救命救急処置	22	
	早期からの救命救急処置	急変異常時のファーストコールへの対応	22	
	糖尿病患者の血糖コントロール	外来患者、入院患者の血糖コントロール		12
		糖尿病患者の血糖コントロール		38
	入所者の全身状態の評価	入所者の定期的検査及び臨時検査の実施とその評価	37	
	急変対応。重症化した患者へのタイムリーな介入	急変。重症化した患者へのタイムリーな介入	4	
	処置前の精神的ケアと環境調整	処置前の精神的ケアと環境調整	6	
糖尿病患者の包括的身体管理とインスリンの調整	糖尿病患者の包括的身体管理とインスリンの調整	24		
特定行為実施		人工呼吸器管理	1	
		硬膜外カテーテルによる鎮痛剤投与、量の調整	16	
		定期的な特定行為の実践	8	
		高度創傷管理	9	
		膀胱ろうカテーテル交換	30	
		気管カニューレ交換	30	
		カテーテル。チューブの交換	35	
		褥瘡評価及び処方	11	
		デブリードマン	11, 34	
		手順書に基づいた定期的な特定行為実施	20	
		特定行為の実施	37	
		特定行為の実施	36	
		在宅での気管カニューレ管理及び胃ろう管理	39	
		周術期集中治療に関する特定行為の実施	5	
		手術麻酔業務(術前、術中、術後)	5	
		病院内で医師とともに診療を担う	7	
		複数疾患のある高齢患者の在宅療養管理	7	
		問診と身体診察および特定行為実施	25	
		院内での横断的活動	18	
	横断的活動	院内で褥瘡に関連した横断的活動	院内で褥瘡に関連した横断的活動	14
看護外来	看護外来でのアセスメントと処置	看護外来でのアセスメントと処置	18	

表 3-2 特定看護師及び診療看護師に期待される活用

分類	内容	文献 ID
体制構築	看護の質の向上のための仕組みの導入と改善	40
	職場の看護の質の向上	13
身体状況に応じた包括的対応	患者の全身管理を行い感染予防に資する	3
	適正な抗菌薬使用の推進による薬剤耐性菌出現予防	3
	術前から術後までの麻酔管理	26
	急変から軽微な症状までのアセスメントと対応	27
全人的ケアと医師の思考の融合 リーダー役割モデル	全人的ケアと医師の思考の融合	4
	将来的な自分の専門領域のリーダー役割モデル	1
患者、医師、看護師の橋渡し	患者、看護師、医師の橋渡し	13
	感染対策、安全対策委員会で患者目線のファシリテーター	3
	医局カンファレンスで、医師、多職種、看護師の通訳の役割	3
患者家族への説明指導教育	患者家族への説明	10
患者の意思の尊重	患者の決定を尊重した特定行為の実施	32
職員等への教育活動	同僚への教育	40
	救急医療スタッフの育成	10
	院内の救急看護の能力の向上	10
	医師不在時の対応	13
医師の代替	再診する救急患者の外来補助	10
	蘇生処置の継続	10
	医師が治療に専念できる環境の実現	6
院内リソース	院内リソースとしての活動	10

表4 特定行為研修修了者および診療看護師活用への認識・期待される効果

分類	効果の内容	文献 ID
患者家族	安心・信頼	19, 22, 37 38, 35, 41
	病状説明への理解向上	1, 20
	苦痛軽減	21
	回復促進	34, 28, 21, 9
	急変・重症化の減少	1, 30, 23, 31, 28, 37
	再受診・再入院の減少	7
	受診の負担軽減	30, 10, 37, 39
	患者の望む療養と看取り	7, 25
	医師との協働の強化	20
	多職種への理解の向上	42
同僚看護師	自分で考える姿勢の獲得	17
	相談のしやすさ	37, 43
	不安の解消	10, 28
	臨床推論の向上	8, 42, 22, 34
	専門スキルの向上	34, 36
	踏み込んだケア実践が可能	1
	医師の負担軽減	10, 39, 26, 44
医師	医師不足の解消	5
	治療の継続性の確保	1, 5, 17
診療ケア	診療ケアのレベルが向上	20, 24, 40
	多職種での統一ケア	11
	加算算定	20
経営	入院患者数増加	45
	地域の看護の質向上	35
地域医療	地域の医療負担の軽減	18

- | 文献ID | 書誌情報 |
|------|---|
| 1 | 鈴木 美智子 (2019) :【活動の場を広げ飛躍する認定看護師 新たな制度が始まる】大学病院における特定行為研修を修了した認定看護師の活用 患者にとって有益な医療・看護の実現, 看護, 71(11), 046-049. |
| 2 | 新 美保恵 (2017) :【経験を生かしてより安全で質の高い看護を 認定看護師対象の特定行為研修】認定看護師を対象とした特定行為研修制度の活用 今後の地域医療を支える人材の育成をめざして, 看護, 69(3), 042-044. |
| 3 | 石神 昌枝 (2016) :【チーム医療の中で看護の専門性を発揮するために特定行為研修をどう活用するか?】(提言2)特定行為研修を活用しよう 制度を有効利用してチームケアの要となる存在に, 看護, 68(5), 049-051. |
| 4 | 本田 和也 (2017) :【「特定行為に係る看護師の研修制度」の活用 地域の医療ニーズに応える看護師の育成と体制整備】実践報告 国立病院機構長崎医療センターの取り組み 特定行為の実施に係る倫理的判断と看護実践の評価, 今後の展望 地域の医療ニーズに応えるクリティカル領域の看護師の立場から, 看護管理, 27(11), 908-914. |
| 5 | 藤原 祥裕 (2017) : 専門医制度と周術期管理チーム 愛知医科大学病院における周術期診療看護師の現状と問題点, 日本臨床麻酔学会誌, 37(7), 844-851. |
| 6 | 若月 裕子, 松本 幸夫, 神田 美由紀, 他 (2017) :【「特定行為に係る看護師の研修制度」の活用 地域の医療ニーズに応える看護師の育成と体制整備】米沢市立病院における「特定行為に係る看護師の研修制度」の活用 研修修了者が円滑に活動するための体制づくり, 看護管理, 27(11), 921-929. |
| 7 | 高口 眞理子 (2020) :【ナース・プラクティショナー(仮称)制度創設の必要性】病院看護管理者の立場から 離島の医療提供における課題への対応策として取り組んだNP教育課程修了者の育成と実践環境の整備 実践者の成果から振り返り、制度創設の必要性を考える, 看護, 72(2), 046-048. |
| 8 | 中島 由美子 (2019) :【特定行為研修修了者の活用】地域の医療ニーズに応える特定行為研修修了者の役割, コミュニティケア, 21(11), 10-13. |
| 9 | 増淵 美恵子 (2017) :【経験を生かしてより安全で質の高い看護を 認定看護師対象の特定行為研修】認定看護師を対象とした特定行為研修制度の活用 看護師のキャリアパスの1つとして派遣を決定, 看護, 69(3), 040-042. |
| 10 | 山下 美智子 (2017) :【経験を生かしてより安全で質の高い看護を 認定看護師対象の特定行為研修】認定看護師を対象とした特定行為研修制度の活用 研修は“看護師”としての立ち位置を理解している認定看護師に, 看護, 69(3), 038-039. |
| 11 | 大内 淑子 (2019) :【特定行為研修修了者の活用】在宅でこそ生かせる看護職の専門性, コミュニティケア, 21(11), 14-18. |
| 12 | 後藤 愛, 高野 政子, 佐藤 圭右 (2015) :【NP教育の成果を探る-自律したHealth Care Providerをめざして】NPのアウトカムとエビデンス 介護老人保健施設, 重症心身障害児(者)施設等のケース 重症心身障害児(者)施設における診療看護師(NP)の成果, 看護研究, 48(5), 459-462. |
| 13 | 春山 早苗 (2017) :【「特定行為に係る看護師の研修制度」の活用 地域の医療ニーズに応える看護師の育成と体制整備】看護師の特定行為研修の修了者の活動状況に関する研究 調査結果から見た看護管理者に求められる役割, 看護管理, 27(11), 894-899. |
| 14 | 小林 郁美, 堀内 駿, 松元 亜澄 (2016) :【特定行為に係る看護師の研修制度 開始から1年で見えてきた成果】【上尾中央総合病院 特定行為研修受講生座談会】新たな学びのなかで特定行為研修受講生が得たもの, 看護展望, 41(12), 1151-1156. |
| 15 | 西川 敏江, 柏本 佳奈子 (2016) :【特定行為に係る看護師の研修制度 開始から1年で見えてきた成果】現場から見えてきた成果と展望 救急の現場のニーズに応える看護の力と特定行為, 看護展望, 41(12), 1138-1143. |
| 16 | 原崎 真由美, 織田 正道 (2019) :【病院の生産性を向上させる人材育成戦略】地方の中小病院に求められる看護職の育成, 病院, 78(10), 735-739. |
| 17 | 飯野 雅子, 鈴木 英之 (2015) :【NP教育の成果を探る-自律したHealth Care Providerをめざして】NPのアウトカムとエビデンス 一般病院のケース 消化器外科病棟における診療看護師(NP)の役割と成果, 看護研究, 48(5), 440-448. |
| 18 | 木村 英子 (2018) :【特定行為研修を組み込んだ新たな認定看護師制度 臨床推論力と病態判断力を活用する看護へ】予防も含めた効果的な創傷管理で生活者である患者の総合的な健康管理を実践, 看護, 70(13), 042-045. |
| 19 | 脇 和枝 (2019) :【活動の場を広げ飛躍する認定看護師 新たな制度が始まる】地域医療における特定行為研修を修了した認定看護師の活用 感染管理領域特定看護師への支援, 看護, 71(11), 050-052. |
| 20 | 富阪 幸子 (2018) :【特定行為研修を組み込んだ新たな認定看護師制度 臨床推論力と病態判断力を活用する看護へ】クリティカル領域の患者へのタイムリーな対応で急変回避に貢献, 看護, 70(13), 038-041. |
| 21 | 平田 尚子, 菊野 隆明 (2015) :【NP教育の成果を探る-自律したHealth Care Providerをめざして】NPのアウトカムとエビデンス 一般病院のケース チーム医療「急性期早期離床チーム」における診療看護師(NP)の役割, 看護研究, 48(5), 436-439. |
| 22 | 甲斐 かつ子 (2016) :【チーム医療の中で看護の専門性を発揮するために特定行為研修をどう活用するか?】(提言3)特定行為研修を活用しよう 重症化予防や急変時対応のみならず医師と看護師をつなぐ“架け橋”の役割を, 看護, 68(5), 052-055. |
| 23 | 吉田 弘毅, 伊藤 豊 (2015) :【NP教育の成果を探る-自律したHealth Care Providerをめざして】NPのアウトカムとエビデンス 一般病院のケース 周術期領域における診療看護師(NP)の活動と成果, 看護研究, 48(5), 430-435. |
| 24 | 中山 法子 (2016) : 特定行為を活用した糖尿病看護の実践, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 20(1), 61-63. |
| 25 | 増田 勝美, 光根 美保 (2016) :【特定行為に係る看護師の研修制度 開始から1年で見えてきた成果】現場から見えて |

- きた成果と展望 急性期病院と診療看護師が活躍する訪問看護ステーションとの連携の形を見る, 看護展望, **41**(12), 1144-1150.
- 26 福島 通子 (2020) : 医療現場の「働き方改革」 医療の質を担保しつつ労働負荷を低減させる方法(第 1 回) 病院の「働き方改革」とは, 病院, **79**(1), 68-73.
- 27 十時 友紀, 小野 美喜, 福田 広美, 他 (2015) : 介護老人保健施設の事業対象看護師の導入により期待されるチームへの効果 導入施設と非導入施設の困った体験の比較より, コミュニティケア, **17**(4), 67-71.
- 28 廣瀬 福美, 小野 美喜, 小寺 隆 (2015) : 【NP 教育の成果を探る-自律した Health Care Provider をめざして】 NP のアウトカムとエビデンス 介護老人保健施設, 重症心身障害児(者)施設等のケース 介護老人保健施設における診療看護師(NP)の活動成果, 看護研究, **48**(5), 456-458.
- 29 光根 美保, 守永 里美, 藤内 美保, 他 (2015) : 【NP 教育の成果を探る-自律した Health Care Provider をめざして】 NP のアウトカムとエビデンス 在宅医療・訪問看護のケース 訪問看護ステーションにおける診療看護師(NP)導入前後の実態調査 訪問看護関連報酬に焦点を当てて, 看護研究, **48**(5), 452-455.
- 30 樋口 秋緒 (2019) : 【特定行為研修修了者の活用】地域のリソースナースとして在宅療養者を支援, コミュニティケア, **21**(11), 23-25.
- 31 市橋 正子 (2018) : 【未来に向けて認定看護師制度を再構築】(メッセージ 2) 特定行為研修を修了した認定看護師への期待 地域ケアの現場で特定行為研修を活用できる認定看護師の必要性, 看護, **70**(7), 054-055.
- 32 川村 佐和子 (2019) : 【特定行為研修修了者がいる在宅現場が見たい-「行為の実施」にとどまらない看護の意義に迫る】訪問看護師が「特定行為研修を活用する」ことの意義, 訪問看護と介護, **24**(11), 798-804.
- 33 島田 珠美 (2016) : 【在宅褥瘡ケア-在宅で生きる新たな技と関わり】在宅で特定行為による創傷管理に取り組んで 手順書による創傷管理の効果とポイント, 訪問看護と介護, **21**(2), 126-131.
- 34 安住 アケミ (2019) : 【活動の場を広げ飛躍する認定看護師 新たな制度が始まる】訪問看護ステーションにおける特定行為研修を修了した認定看護師の活用 全人的な看護を土台に特定行為を実施できる訪問看護師の強み, 看護, **71**(11), 053-055.
- 35 木下 真里 (2019) : 【特定行為研修修了者の活用】療養者との信頼関係強化・ケアの質向上に効果, コミュニティケア, **21**(11), 19-22.
- 36 春山 早苗, 村上 礼子 (2017) : 【地域を支える病院看護師の育成】地域医療に貢献する看護師特定行為研修, 病院, **76**(5), 371-375.
- 37 小野 美喜 (2016) : 大学院修士課程における NP 課程修了生の活動と成果, 看護科学研究, **14**(1), 14-16.
- 38 杉元 佐知子 (2016) : 「特定行為に係る看護師の研修制度」を理解する, 日本糖尿病教育・看護学会誌, **20**(1), 64-66.
- 39 加藤 典子 (2016) : 【特定行為に係る看護師の研修制度 開始から 1 年で見えてきた成果】特定行為研修 1 年間の状況と国としての今後の取り組み, 看護展望, **41**(12), 1126-1133.
- 40 星 北斗 (2018) : 【看護職のタスクシフト・タスクシェア】急性期病院における特定行為研修修了看護師の活躍の可能性, 病院, **77**(5), 393-397.
- 41 長谷川 健美, 山田 顕士, 福田 広美 (2015) : 【NP 教育の成果を探る-自律した Health Care Provider をめざして】 NP のアウトカムとエビデンス 在宅医療・訪問看護のケース 診療所における診療看護師(NP)の活動と成果, 看護研究, **48**(5), 449-451.
- 42 八木 街子, 村上 礼子, 鈴木 美津枝, 他 (2017) : 急性期病院における特定行為にかかわる看護師の研修制度の活用のための示唆 受講ニーズ調査の結果から, 看護展望, **42**(13), 1253-1259.
- 43 平野 優, 町屋 晴美 (2015) : 【NP 教育の成果を探る-自律した Health Care Provider をめざして】 NP のアウトカムとエビデンス 看護の視点からみたケース 高齢者医療施設における診療看護師(NP)の活動成果, 看護研究, **48**(5), 463-467.
- 44 大久保 清子 (2020) : 【多職種での運用とパス分析・改定・アウトカム評価がわかる タスク・シフト/シェアが成功する!業務改善 時間短縮 効率アップ パス活用術】医療現場におけるタスク・シフティング タスク・シフティングの必要性和今後の課題, Nursing BUSINESS(2020 春季増刊), 8-14.
- 45 井出 恵伊子 (2015) : 集中治療室目安箱 ナース/ME, 私の言い分(第 19 回) 看護師の特定行為に係る制度 新しい制度は, どのように活用できるか?, Intensivist, **7**(1), 184-187.
-